



もりおか歴史文化館 | 企画展 |

MORIOKA NAMBU CHRONICLE PART 1

2016
4/29 (金・祝)
↓
7/3 (日)

盛岡南部家の 生き方

第一部 乱世を切り抜けた南部家と
盛岡のはじまり

会場／もりおか歴史文化館2階—企画展示室—
開館時間／午前9時～午後7時 *入場受付は午後6時30分まで
観覧料／一般300円、高校生200円、小・中学生100円、団体(20人以上)は各2割引
*盛岡市内在住で65歳以上の方、小・中学生のうち盛岡市在住、就学の方は無料
*障がいをお持ちの方やその介護をされる方(障がい者1人につき1人まで)は無料
主催／もりおか歴史文化館 共催／盛岡市、盛岡市教育委員会
後援／盛岡商工会議所、中津川流域文化施設連盟NACA、岩手日報社、読売新聞盛岡支局
朝日新聞盛岡総局、毎日新聞盛岡支局、産経新聞盛岡支局、日本経済新聞社盛岡支局
河北新報社盛岡総局、盛岡タイムス社、岩手日日新聞社、アール東北新聞社、時事通信社盛岡支局
共同通信社盛岡支局、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ
岩手朝日テレビ、エフエム岩手、岩手ケーブルテレビジョン、ラヂオもりおか、マシェリ情報紙ゆうゆう

もりおか歴史文化館
Morioka History and Culture Museum
活性化グループ

MORIOKA NAMBU CHRONICLE .PART1

©もりおか歴史文化館 企画展

盛岡南部家の 生き方

第1部 乱世を切り抜けた南部家と盛岡のはじまり

「盛岡」の歴史は「南部」という一族の動きと密接な関係にあり、南部家についての理解を深めることは、盛岡を知る第一歩ともいえるでしょう。しかし盛岡の「殿様」とも呼ばれる盛岡南部家当主(盛岡藩主)の実態は、いまだ多くの謎に包まれています。盛岡の「殿様」が登場する昔話や伝説も多くありますが、果たしてそれは真実の姿なのでしょうか。実際に「殿様」は何人いて、それぞれがどのような人物で、具体的にどのような事績があるのでしょうか。

この企画展では、改めて歴代の当主に焦点をあてることで、盛岡の「殿様」の実像に迫るとともに、「南部」をキーワードとした「盛岡」の歴史を見直すことができると考えています。「南部家はどのような一族であったか」という課題を軸に、彼らと盛岡の関わりや、盛岡藩主としての生き方などを追究する中で、現在も脈々と受け継がれる盛岡の魅力の原点に思いを馳せていただければ幸いです。

特に今回は戦国期から江戸初期の南部信直・利直・重直・重信4代の時期に焦点をあて、盛岡の基礎を創り上げ、その後の盛岡のあり方を決定づけた盛岡南部家の人々の事績を紐解きながら、「盛岡」のルーツを探ります。 *平成29年度に第2部、平成30年度に第3部を開催予定



豊臣秀吉奉行人(浅野長政・長束正家・石田三成・増田長盛)連署奉書



徳川家康書状



南部重信和歌短冊



左: 銀白檀塗合子形兜(黒田官兵衛所用)



右: 鯨尾兜(蒲生氏郷所用)(岩手県立博物館所蔵)



前田利家起請文



火縄銃 銘 差取棒(徳川秀忠より拝領)

◎ 関連企画

① ギャラリートーク (学芸員による企画展示資料解説)

日時/5月22日(日)、6月12日(日) 各日13:30~14:00
会場/当館2階 企画展示室
定員/なし(当日自由参加)
参加費/展示室入場料が必要

② 一れきぶん講座(企画展関連講座)

1. 「古文書を読む 一盛岡藩の史料学一」

講師/千葉一大氏(青山学院大学非常勤講師)
内容/南部信直が家族に宛てた手紙を基礎史料としながら「殿様」の本音に迫ります。

日時/5月8日(日)13:30~15:30
会場/当館1階 研修室
定員/50名(要申込)
申込締切/4月29日(金・祝)必着
参加費/無料

2. 「盛岡藩雑書の世界」

講師/細井計氏(岩手大学名誉教授)
内容/盛岡藩家老による『雑書』を基礎史料としながら南部重直・重信の時代を紐解きます。

日時/6月26日(日)13:30~15:30
会場/当館1階 研修室
定員/50名(要申込)
申込締切/5月31日(火)必着
参加費/無料

◎お申込み方法: 往復ハガキに①住所 ②氏名 ③年齢 ④性別 ⑤電話番号をご記入の上、もりおか歴史文化館(〒020-0023盛岡市内丸1番50号)宛に郵送。
※定員を超えた場合は抽選となりますので予めご了承ください。
※お申込みが定員に満たなかった場合は受付期間を延長する場合があります。

